

和納小5年生が3季連続V
春季近郷少年野球大会

先月9日、黒埼町営球場で春季近郷少年野球大会が行われ、和納小5年生が決勝で中之口東小に圧勝し、見事優勝しました。これで、昨年の春季大会から、この5年生のクラスは3季連続優勝をおさめたことになります。

- 【大会結果】
- 6年生 1位:味方小
2位:和納小
 - 5年生 1位:和納小
2位:中之口東小



■後列左から:いがらしはるかちゃん、たかつりさちゃん、さんごありさちゃん
■中列左から:いしづかるいちゃん、ほんまようへいくん、やまだしほちゃん、みずさわみさちゃん
■前列左から:まきたれいかちゃん、みすみはるかちゃん、たけいももこちゃん

ぼく
わたしの
自信作

■間瀬保育園 五歳児
作品:『暑い夏、海に
スイカに青い空』



あがり有名
“いわむろの蛍”と野外コンサート
~蛍と幻想的な音色。かがり火と静寂が演出~

すっかりおなじみとなった『蛍と野外コンサート』が先月1日、丸小山緑地広場で開かれ、家族連れや温泉客、温泉病院の患者さんら1,000人が訪れました。今年のコンサートは、オーボエ奏者の宮崎安代さんとピアノの吉田珠実さんによる2人。子どもからお年寄りまで、親しみやすい曲が次々に演奏されると、訪れた人々は大喜び。静寂の中に広がる澄んだ音色が、一層幻想的な雰囲気をかもしだしていました。演奏後は弘川沿いで蛍観賞にうつり、「岩室ホテル会(岡崎 昭代表)」の皆さんから渡された提灯を片手に5分ほどで現地に到着。例年の2、3倍といわれる無数のゲンジボタルがおりなす光のイルミネーションを楽しみました。

既に新聞紙上(H12・6・23付新潟日報1面)でも紹介されたように、10年ほど前から蛍の生息環境づくりに地道に取り組んでこられた「岩室ホテル会」の皆さん。同会の調査によると先月上旬現在、約5,000人の方々がいわむろの蛍を観賞に来られたそうです。皆さんが、一生懸命育ててこられた“いわむろの蛍”。いわむろの新しい財産として、みんなで大切に守っていきましょう。



新しい人権擁護委員に
伊藤一男さんが就任



伊藤一男さん
15年間にわたり人権擁護委員として活躍され、平成7

年に「全国人権擁護委員連合会表彰」を受け、数々の実績を残した光井智雄さん(和納7区)が先月1日退任され、後任に伊藤一男さん(和納3区)が就任されました。



光井智雄さん

田中の松良寛歌碑周辺が
整備されました。

丸小山にある良寛歌碑が、長い年月の風雪により風化が進んだため、このほど歌碑周辺の改修が行われました。今回の整備により、今まで登りにくかった箇所に階段が取り付けられるなど、古くからの観光スポットも、二層皆さんに親しまれるようリニューアルされました。(写真見)皆さんもぜひ一度、足を運んでみてくださ。



▲どこまで飛ぶかな...!?

『紙ひこうき大会』で親子らがコミュニケーション
~4回目の今年は、70人を越え大人気~

先月2日、村民体育館で、子ども会育成会主催による『紙ひこうき大会』が行われました。今回で4回目を迎えますが、今年も保育園児から大人まで約70名が参加し、それぞれ思いおもしろい紙ひこうきを飛ばしていました。紙ひこうきの作り方や飛ばし方を、友だちどうして教えあったり、お父さんが子どもに教えていたりなど、ふれあいの場ともなっていたようで、参加者は楽しい時間を過ごしていました。

17回目『芸能発表会』盛大に開催
~2団体が加わり、熱演が次々と~

先月9日、村民体育館で、文化協会主催による『芸能発表会』が行われました。今回で17回目を迎えますが、今年は新しく2団体が加わり、11団体のクラブが、日頃の練習の成果を披露しました。約300人の入場者は、会場いっぱいに響き渡る歌声や音色、フロアーを使っのダンスなど各団体の熱演、熱唱に大きな拍手を送り、楽しい時間を心ゆくまで満喫し、会場をあとにしました。



▲岳風会の皆さんによる吟詠

思い出の2日間。『めだかの学校』開校
~助け合い、協力し合い、子どもたちは成長しています~

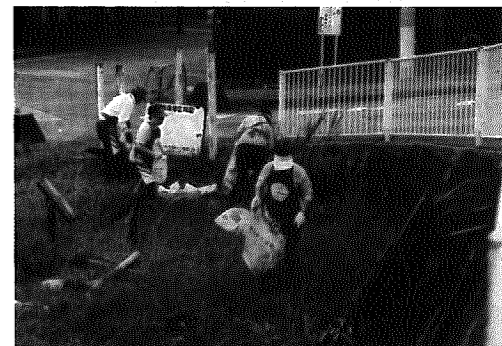
子どもたちの自主性を養い、協調性を高めることを目的に、今年も先月15・16日に『少年少女宿泊研修“めだかの学校”』が開校されました。村内の小学校4~6年生を対象にしたもので、今回は24名が参加しました。テントの設営や夕食づくりなど初めて挑戦する事に、指導のもと、子どもたちは協力し合い、教え合いながら取り組み、また、ゲーム大会で楽しんだり、子どもたちにとって、心に残る2日間となりました。新しい友達もたくさんできたようです。



▲みんなで楽しく夕食づくり

村内たばこ販売店が間瀬でクリーン作戦
~マナー呼びかけ、漁協周辺を清掃~

喫煙マナーの向上と環境美化運動を積極的に推進している岩室村たばこ販売店では、今年も先月16日、西蒲漁協周辺でクリーン作戦を実施しました。参加者は、「スモーキング・クリーン」の文字の入った緑のエプロンとサンバイザーを身につけて作戦を開始。漁協前の空き地では、草むらの中から投げ捨てられた空き缶やビニール袋などを丁寧に拾い集め、その多さに驚いていました。なお、平成11年度の村たばこ税は、5,600万円ほどで村の貴重な財源となっています。



▲一つひとつ拾い集め、マナーを呼びかける参加者